

代替海水ポンプを配備し運用を開始しました

東通原子力発電所は、原子炉等の冷却に必要な海水を供給する海水ポンプが故障した場合の復旧対策の一つとして、代替海水ポンプを配備しました。

東京電力福島第一原子力発電所の事故では、津波による浸水で海水ポンプが故障し、原子炉の除熱機能が喪失する一因となりました。

このような事故を踏まえ、当発電所では海水ポンプの復旧対策として、ポンプ用モータの洗浄・乾燥のための資機材や、モータの予備品を配備しておりますが、今回、さらに代替海水ポンプを配備することで対策の充実を図りました。

海水ポンプモータの復旧対策(配備済)

- 海水ポンプのモータ部の洗浄・乾燥資機材を配備(H23/8/24)
- 海水ポンプのモータ部の予備品を配備(H24/3/30)



海水ポンプの復旧対策

- 代替海水ポンプを配備(H24/6/29)
海水を取水できる箇所に設置し、取水口などから海水を汲み上げ、熱交換を介して原子炉を冷却

大きさ	長さ:約6m、幅:約2.5m 高さ:約2.3m
主な搭載物	取水用水中ポンプ、取水用ホース、送水ポンプなど
送水能力	30,000ℓ/分
最大送水能力	1.2MPa
動力源	ディーゼルエンジン



被害の状況に応じ、適切な対策を選択

代替海水ポンプによる復旧作業について、円滑かつ適切に行われるよう、様々な訓練を実施しております。



8月10日に行われた送水ホースの敷設訓練



8月29日に行われた送水訓練



小老部川からの取水訓練を実施しました

東通原子力発電所では、平成24年8月30日(木)、万一、原子炉や使用済み燃料プールの冷却機能が喪失した場合でも、冷却水を補給できるよう、水源確保対策の一つとして、発電所構内を流れる小老部川から取水する訓練を実施しました。

この訓練では、渇水時を想定して川を一部堰き止めて取水し、原子炉建屋付近の防火水槽までの約1.2kmを円滑に送水できることを確認しました。

今後も、安全対策が確実に実行できるよう、訓練を通じて対応力の強化を図っていきます。



渇水時でも取水できるよう川を一部堰き止め



送水するための消防ホースを敷設

東通村の祭りでよさこい鳴子踊りを披露しました

東通原子力発電所のよさこい鳴子踊り愛好会は、平成24年8月26日(日)、「ひがしどおり来さまいフェスタ2012」に、総勢61名が参加しました。

今年は、「震災復興で頑張っている多くの方々に元気を届けたい」との気持ちを胸に、踊りや曲、衣装を一新して祭りに参加しました。また前日には、発電所員による「エネルギークイズ」大会を実施しました。

これからも、「地域の方々とのおふれあい」を大切にしていきたいと思います。



一丸となってダイナミックな踊りを披露



発電所員による「エネルギークイズ」大会